



KANSAI UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning
Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2015

vol. 19

大学の原点

教育推進部 教授 三浦 真琴

旧聞に属することで、しかも私事であるので、ここに披露するのは恐縮至極なのだが、読者諸賢のご海容を賜りたい。今から20年前、当時のIDE（民主教育協会）会長の肝煎りで合衆国北東部に高等教育関係機関を訪問する機会を得た。折しも学士課程教育の新たなパラダイム“From Teaching to Learning”がアメリカの大学界を賑わしはじめた頃である。

訪問先の一つであるM.I.T.では「FDをどのようなものだとお考えでしょうか」と尋ねられ、教師の教育力の向上を目指す組織的な取り組みと応じると「それはもう古い考え方ですよ」と即座に修正された。日本の高等教育界でフロントランナーを目指さなければならない立場にあった同行の諸先輩は自国の遅れを痛感したと後に述懐されたが、若輩の自分は新しい時代の訪れを告げる、刺激に満ちた考え方だと感じた。

この他にも印象的だったことがある。くだんのM.I.T.はスローンビジネススクールなど、人文社会科学分野の教育研究機関を擁するが、それに伴って校名が変更されることはなかった。創設当時の理念、魂を忘れないためだと教えられた。当初は教員養成機関、現在は大学院であるコロンビア大学のTeacher's Collegeも同様である。ア

メリカの大学界における「革新」と「守旧」二つのフェーズを垣間見たと、この時は感じた。

ひところ、自校教育が脚光を浴びた。現在も綿々とその営為が継承されているはずである。学生に限らず、自分の所属する教育機関の歴史、創設時の想い、それを知ることは大学が自分にとって安心できる居場所であることを確認するために不可欠な営みである。さはさりながら、わたくしたちは果たして自ら奉職する大学の、勤務校ではなく、制度としての原点を確認することがあるだろうか。

11世紀のボローニャでは、ヨーロッパ各地から街の法学者の下に集まった探究心旺盛な学生が出身地別に作った学生団体を基に「自治的な組合（Universitas）」が結成された。世界最初の大学の誕生である。当時、ボローニャ大学の学長は学生から選出され、教授の人選・授業内容・給料は学生組合が決定した。つまらない講義や聴講者の少ない講義には罰金が科せられ、改善が見られない場合には免職が伝えられることもあった。

組合結成の宣言書には、学生の許可なく休講してはならないこと、始鈴・終鈴に従うこと（但し、説明が終わっていない場

合にはその限りにあらず）など、現在にも当てはまる（当てはめるべき）内容が記されている。他方、「学問について一から十まで丁寧に講義すべし」と、知識や情報へのアクセスが往時とは比較できないほど進化している現在では見直しが迫られる項目もある。しかしいずれにしてもここに通底しているのは「学生が中心」であるということだ。

先に述べた新しいパラダイムの要諦は、「学習を創発する機関」として大学を位置づけ、「学生中心主義」を高らかに唱えたことにある。しかしそれは全き革新ではなく、大学の原点に立ち返った上で、今昔の違いを斟酌し、将来を見据えた設計図を描いたもの、すなわち、伝統の創発的復活である。

念のために書き添えておくと、学生中心主義とは学生を消費者に見立て、顧客の優遇を図るということでも、手取り足取り懇切丁寧に指導・教授するということでもない。学びの苑にある者なら誰もが携えている知的好奇心を尊重し、これを刺激すること、それが大学誕生時の理念、魂を忘れぬことだと筆者は心得て、まだ見ぬ彼の地に思いを馳せること、しばしばである。

フォーラム・セミナー報告

第13回 FDフォーラムを開催しました

日時：6月27日(土)10:00～18:00
場所：第2学舎 3号館 E301教室

6月27日、関西大学千里山キャンパスにおいて、第13回関西大学FDフォーラム（全国私立大学FD連携フォーラム後援、関西地区FD連絡協議会協賛）を開催しました。今回のフォーラムは「交渉学のFuture Design-交渉学を身体化する-」をテーマに、教員がそれぞれの授業において、その必要に応じて交渉学のエッセンスを導入することができることを目標におこないました。交渉学のメソッドロジーについて、具体的な例を用いてインストラクションを行い、その後に「デモ授業」を実施した上で、解説を加える形式でおこなわれました。

講師には一色 正彦氏（金沢工業大学大学院 知的創造システム専攻 客員教授 他）をお迎えし、三浦 真琴（関西大学教育推進部 教授）、山本 敏幸（関西大学 教育推進部 教授）、田上 正範（関西大学 非常勤講師、追手門学院大学 准教授）、松本 俊明（関西大学 非常勤講師、弁護士）がファシリテーターとしてサポートをしました。

採択されたAPにおいて、アクティブラーニングの成果をどのように可視化するかという課題に対し、「交渉学」の導入に着手してきました。ハーバード大学で培われた「交渉学」とは、これから社会に巣立っていく学生にとって、社会人基礎力の根幹をなす信頼関係構築に必要なコミュニケーション能力です。このコミュニケーション能力は学生のみならず、第一

線で活躍する社会人の間でも学び直しで価値の見いだされている分野です。交渉学の基礎概念とその実践をさまざまな授業でマイクロインサージョンすることで、共通教養科目のみならず専門科目の分野でより人間性のある人材を輩出できることが期待されています。

講演では、交渉学の基礎概念について説明があり、さまざまな基礎教養科目でどのように交渉学をマイクロインサージョンすればいいかについて、参加者と一緒に考えていきました。各グループによる話し合いでアイデアを共有し合い、全体で共有し、一色氏のフィードバック・コメントをいただきました。

（教育推進部 山本敏幸）



講演の様子

第14回 FDフォーラムを開催しました

日時：10月3日(土)13:30～17:05
場所：総合図書館 ラーニング・commons内
ワークショップエリア

10月3日、関西大学千里山キャンパス総合図書館 ラーニング・commons内ワークショップ・エリアにおいて、学習成果の評価に関するテーマについて議論を重ねてきた大学教育学会と合同して、「第14回関西大学FDフォーラム・大学教育学会課題研究『学士課程教育における共通教育の質保証』合同企画イベント」を開催しました。

今回のフォーラムではポスターセッション、基調報告、フィールド報告及び報告に対するコメント、パネルセッションを展開しました。ポスターセッションでは、関西大学、新潟大学、山

口大学、名古屋商科大学、山形大学のそれぞれの取組事例についてご発表頂きました。また基調報告では松下佳代先生より学習成果の評価にまつわる課題やループブリックをめぐる論点についてご講演を伺いました。さらに各大学からのフィールド報告後には濱名篤先生より各取組へのコメントを頂くとともに学士課程教育全体を俯瞰する視座をご提示頂きました。最後にパネルセッションでは、安藤輝次先生、深堀聰子先生、濱名篤先生、松下佳代先生にご登壇頂き、共通教育における質の保証や学習成果の評価に関する様々な課題や論点について

ライティングシンポジウムを開催しました

関西大学ライティングラボでは、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援」を、津田塾大学と連携して展開しています。その取組の一環として、2015年9月12日に、津田塾大学小平キャンパスにて、連携シンポジウムが開催されました（関西大学会場にも同時中継）。シンポジウムのテーマは、ライティングの力を伸ばすためにルーブリックをいかに活用するかをめぐ

るもので、関西大学・津田塾大学における実践事例の報告のあと、佐藤浩章氏（大阪大学教育学習センター）の講演「大学で教える人のためのルーブリック入門」と、藪塚謙一氏（朝日新聞社）の講演「『書く力』の鍛え方」、およびパネルディスカッションが行なわれました。当日は25大学から計73名の参加があり、ルーブリックに対する高い関心が感じられました。

（文学部 中澤 務）

【当日のプログラム】

日時：2015年9月12日（土） 14:00～17:30

会場：津田塾大学小平キャンパス7号館7101教室（同時中継 関西大学千里山キャンパス第1学舎1号館ライティングラボ1）

プログラム：

- 14:00 開会のあいさつ（津田塾大学学長 國枝マリ）
- 14:05 趣旨説明（津田塾大学ライティングセンター特任講師 飯野朋美）
取組の概要（関西大学文学部教授/取組責任者 中澤務）
関西大学事例紹介（関西大学教育推進部特任助教 毛利美穂）
津田塾大学事例紹介
（津田塾大学学芸学部英文学科教授/取組責任者 高橋裕子）
- 14:45 講演1 「大学で教える人のためのルーブリック入門」
大阪大学教育学習支援センター副センター長 佐藤浩章 氏
- 15:35 講演2 「『書く力』の鍛え方」
株式会社朝日新聞社長野総局長 藪塚謙一 氏
- 16:20 パネルディスカッション
- 17:25 閉会のあいさつ
（関西大学副学長・経済学部教授/取組推進責任者 林宏昭）



関西大学同時中継会場でのシンポジウムの様子

極めて密度の濃い議論を展開頂きました。なお今回のフォーラムは、本学のラーニング・コモンズを初めて学外に公開する形での催しとなりましたが、参加者からも概ね好評価を頂きました。

（教育推進部 山田嘉徳）



FDフォーラムの様子

関西大学における国際教育カリキュラム促進のためのFD/PDを実施

日時：7月20日(月)～24日(金)
場所：関西大学 千里山キャンパス

Knight(1994)では、教育の国際化とは、教育機関の様々な機能、研究、そして教育において国際的な要素、または異文化を意識づけた側面が加味される過程であると定義されている。大学教育の根幹を成すものは、教育カリキュラムである。そのカリキュラムを国際化しなければ、真に大学が世界的な通用性を目指すことはできない。しかし現場において、このプロセスは容易なものではない。平成27年度における国際教育のためのFD/PDとして、本学では7月末の5日間(7月20日～24日)の集中トレーニングワークショップを開催した。このワークショップは、CLIL(クリル/Content Language Integrated Learning 内容言語統合学習)と言う、専門教科を英語で学び教科知識、語学力、思考力、コミュニケーション力を統合して育成する教授法である。CLILの手法を通して、効率のかつ深いレベルで専門内容を修得し、また英語を学習手段として使うことで、4技能はもちろんのこと、批判的思考力やコミュニケーションにおける実践力を伸ばすことができるため、一般的な学習スキルの向上も意図されている。CLILは、外国語教育の様々な教育原理・技法を有機的に統合することで、高品質な授業の実現を目指す。CLILの基本原則は言語教育に基づくが、日本国内の事情、特に昨今の高等教育機関においては専門科目を英語で教授する必要性が高まっており、多くのケースにおいて日本人学生と国際学生が混合した履修者を対象とする教室が対象となる。多言語支援や、日本語と英語をどれぐらいの比率で、またはどのようなチャンネルで応用しながら学習者の最大限の学びを引き出せるのかなど、多くを思案しなくてはならない。これらの事情にあっ

たEMI(English Mediated Instruction)を展開するというのが、本学においても現実的な方向性だろう。UQ(クイーンズランド大学)によるCLILワークショップは、合計16名の関西大学の参加者らを対象に行われた。まず第一日目にCLILとは何かを理解することから始まり、二日目以降は英語を用いた授業ではありながら、学習者の内容理解のプロセスを効率よく支援する様々なメソッドや教授の工夫などについて実体験しながら進められた。本ワークショップで、留学生と日本人学生の混在する多様な教室事情にも対応できる教授法を具体的に実体験することができた。参加した教員達からも希望があったが、この機会を皮切りに、次年度についてもこのような企画をより多く提供していく予定である。

(国際部 池田佳子)



CLILワークショップの様子

コラボレーション commons だより

凜風館1階に開設している「コラボレーション commons」では、誰でも気軽に本を読んでもらえるようにと、「LinCom(リンコム)ライブラリー」を設置しています。

ライブラリーはエリアの特色に合わせて大きく2か所に分かれています。「コンシェルジュカウンター前の本棚」には、新着図書・特集本・小説・洋書・英語コミック・写真集(カウンタースペース)を、「ICTエリア(デスクトップPC2台設置)前の本棚」には、パソコンスキルに関する本・レポート作成についての本・学術図書・雑誌等を合わせて約200冊配架し

ています!

「コラボレーション commons」内であれば、自由に手にとって閲覧できるので、ソファでリラックスして読んでいる学生さんや友達と一緒に見ながら談笑している学生さんも多くいます。

配架する図書については、随時募集していますので、「こういった本があればいいなあ!」「最近話題になったあの作家の小説が気になる」などあれば、コンシェルジュカウンターに設置している申し込み用紙やインフォメーションシステムの「申請・アンケート」からどんどん申し込ん



てください。

学生はもちろん、先生方からの応募や本の寄贈なども大歓迎ですので、ぜひともよろしくお願いたします!

(柴田晴美、嶋本美幸、中田裕己、岩崎千晶)

Learning Assistant

LA活動報告

秋学期も、本学 Learning Assistant (LA) 学生が授業内外のさまざまな場面で活躍しています。今回は、授業外での活躍の一部をご紹介します。詳細は、CTLのWebサイト (<http://www.kansai-u.ac.jp>) または、平成28年発行予定のAPニューズレターをご覧ください。

●他大学のLAとの交流が始まっています

秋学期よりLA制度をスタートさせた園田学園女子大学と、研修（9月に千里山キャンパス、10月に高岳館（合宿形式）で開催）や実習をかねた授業見学などの密な交流が始まっています。



高岳館LA合宿



園田学園女子大学LAの実習の様子

●聖路加国際大学で登壇しました（11月12日）

聖路加国際大学で開催された講演会・ワークショップに、本学のLAが招聘されました。先方のLAとの交流も始まっています。



聖路加国際大学ワークショップ



LA活動の視察

●LAの自主企画によるワークショップを開催

誰もが楽しめるグループワークを目指す「バリアにねこばんち!ちゃれにゃんずワークショップ」が開催されました。テーマは、10月が「聴障学生とグループワーク」、11月が「グループワークの先入観」でした。また、11月にはワークショップを通じて、幸せとは何か、自分にとっての幸せを考え直す「HAPPINESS IS…」が開催されました。



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②

教育開発支援センターからのお知らせ

ラーニング・コモンズで
ラーニングCaféをOPENしています！

教育開発支援センターでは今学期も毎週水曜日に「ラーニングCafé」を開催しています。「ラーニングCafé」は、アカデミックスキルを学ぶミニ講座・ワークショップとして2013年度にスタートしました。以来、リーディングやプレゼンテーション、ノートテイクなどのテーマで開催してきましたが、今学期は、単にスキルを身につけるだけではなく、そのスキルをどのように自分の学びに活かすかを考えるような内容へと、少しずつバージョンアップを図っています。

また今学期は図書館と共催して、図書館ラーニング・コモンズ、ワークショップエリアにおいてラーニングCaféをOPENしています。図書館に開設された新たな学びの空間に、学習支援の息吹を吹き込み、学生たちの主体的な学びのサポートをしております。

10月は佐々木知彦研究員による、速読やクリティカル・リーディング、精読といった、いくつかの読み方を体験することで、自分と読書の関係を考えました。11月は、授業でLA（ラーニング・アシスタント）を務める学部生が担当し、文章要約やグループワークのポイントを学びました。

学生同士で学びあうピアラーニングのスタイルです。12月は岩崎千晶准教授による電子黒板を活用したプレゼンテーションに関するCaféを実施しました。

また「教職ラーニングCafé」も開催しています。教職志望の学生が集まり、教育実習の様子や教職を目指す理由、教育への思いなどについて意見を交換する場です。毎年採用試験に合格した学生が講師としてその経験談を話してくれる場もあります。

3月には卒論を書き終えた4回生が、その体験談を基に下級生らと話し合う「卒論Café」も予定しています。どれも学部の垣根を越えて、気軽に学べる機会です。リピーターの学生さんも見られるようになりましたので、今後もより良い学習支援の場を広げて参ります。ぜひ学生さんに勧めて頂きますようよろしくお願いします。

(教育推進部 佐々木知彦、岩崎千晶)

From
CTL事務局

アクティブ・ラーニングというワードがここ数年で当たり前のように使われるようになりました。

職員として仕事を始めて8年経ちますが、私が学生の頃はゼミを除けば、ほとんどが講義型の授業であったため、初めは『アクティブ・ラーニング』=『グループワーク型の講義』という捉え方をしていました。

しかし、3年ほど前から業務で「コラボレーションコモンズ（2013年4月より凜風館1階に開設）」の準備・運営に関

わって行く中で、ひとえにアクティブ・ラーニングと言っても、グループワークのように複数人意見を出し合う形態もあれば、プレゼンテーションのようにあるテーマについて個人で情報を整理して発表を行う形態などもあり、さまざまな捉え方があることに気づかされました。

現在、関西大学にはアクティブ・ラーニングを支援する施設（ラーニング・コモンズ）が複数あり、学部を問わず多くの学生さんが目的に応じてそれぞれの施設を利用してきています。

凜風館1階に「コラボレーションコ

モンズ」を開設して3年が経過し、初めの頃は『どのように利用したら良いのだろうか?』という学生さんが多かった気がしますが、今は正課・正課外を問わず積極的に活用してくれており、担当者としても非常に嬉しく思っています。

積極的に自分から動くことで、さまざまなことを学べるのが大学だと思います。

自分から動くというのは、なかなか難しいことかもしれませんが、学内にあるラーニング・コモンズが一つのきっかけとなれば幸いです。(裕)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2015年12月25日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター